

令和5年度 第6回下野市教育委員会定例会議事録

日 時 令和5年9月13日（水）午後1時30分～午後4時30分

会 場 下野市役所3階 教育委員会室

出席委員 教 育 長 石崎 雅也 職務代理者 永山 伸一
委 員 石嶋 和夫 委 員 佐間田 香
委 員 川田 玲子

出席職員 教育次長 近藤 善昭
教育総務課長 高山 正勝
学校教育課長 石島 直
生涯学習文化課長 根本 宣明
文化財課長 山口 耕一
スポーツ振興課長 伊藤 隆行
教育総務課課長補佐 平野 享
学校教育課主幹兼指導主事 土田 礼巳
学校教育課主幹兼指導主事 水本 百合子
教育総務課主事 慶留間 遥

公開・非公開の別 公開（一部非公開）

傍 聴 者 0 人

報道機関 0 人

議事録（概要）作成年月日 令和5年10月13日

教育長の報告

報告第34号 下野市教育委員会後援名義等の使用承認について
報告第35号 下野市教育委員会後援名義等使用の承認等の状況について
報告第36号 令和5年度「いきいき学び塾」の事業報告について
報告第37号 令和5年度とちぎっ子学習状況調査の結果分析について
報告第38号 下野市教育支援委員会の判定結果について（第1回答申）

議 事

議案第32号 令和5年度下野市児童表彰被表彰候補児童の内申について
議案第33号 下野市文化財保存活用地域計画推進協議会委員の委嘱及び任命
について

その他

(1) 令和5年度下野市教育委員会主要日程について

1. 開会

(石崎教育長) ただいまから、令和5年度第6回下野市教育委員会定例会を開会する。

2. 教育長あいさつ

(石崎教育長) 8月19日から本日9月13日までの職務について報告する。

- ・ 8月22日、第5回下都賀地区教育長部会が開催された。
- ・ 8月23日、香川県高松市小学生親善交流団歓迎会が開催された。
- ・ 8月25日、第46回栃木県少年の主張発表下都賀地区大会がグリムの館において開催された。
- ・ 8月26日、「学び続ける教師のための教員研修リレー講座」が、白鷗大学大行寺キャンパスにおいて開催された。
- ・ 8月30日、公仕と教育委員会の間で、「安全対策・職場環境・業務課題」に関する意見交換会を行った。今年度、金属探知機を使用した校庭の埋没物の除去に取り組んでいるため、安全対策について議題とした。
- ・ 8月31日、令和5年第3回市議会定例会が開会した。
- ・ 同日、「全国高等学校社会科学・郷土研究発表大会」において「優秀賞」を受賞したことにより、県立石橋高等学校歴史研究部員が校長及び顧問とともに市長を表敬訪問した。
- ・ 9月9日、女声合唱団「コール・カナリア」40周年記念コンサートが開催された。
- ・ 9月11日、第1回教育支援委員会を開催した。

以上の報告内容について、質疑等はあるか。

(佐間田委員) 学校における安全対策についてである。現在、学校主体で金属探知機による校庭の埋没物の除去を進めているということだが、埋没物を除去した後の校庭の埋め戻しに関する予算は、市教育委員会で確保しているのか。

(高山教育総務課長) 埋没している釘等をスコップ等で除去しているため、その後土を戻す形で校庭を復元することができる。

(石崎教育長) 学校主体で作業は行っているが、学校に任せるのではなく、市教育委員会事務局職員も除去作業に関わっている。

他に質疑等はあるか。(特になし)

3. 議事録署名人の選任 石嶋委員及び佐間田委員を指名

4. 前回議事録の承認

(石崎教育長) 前回議事録について、事務局に説明を求める。

(平野教育総務課課長補佐) 令和5年度第5回教育委員会定例会議事録について、原案からの修正がなかった旨説明を行う。

(石崎教育長) 質疑等はあるか。(特になし)
議事録はこのとおり決定とする。

5. 教育長の報告

(石崎教育長) 報告第34号、下野市教育委員会後援名義等の使用承認について、説明を求める。

(高山教育総務課長) 令和5年9月現在、新規の後援申請が1件あったため、承認の決定前に教育委員の皆様から意見を頂きたい。申請事業については資料のとおりである。

(石崎教育長) それでは、意見、質疑等はあるか。

(石嶋委員) 参加費は500円の資料代のみであり、妥当であると感じる。また、下都賀地区の各市町教育委員会にも申請をしているため、後援してよろしいのではないかと思う。

(石崎教育長) それでは、1件の後援申請を承認してよろしいか。(全委員承認)

続いて、報告第35号、下野市教育委員会後援名義等使用の承認等の状況について、説明を求める。

(高山教育総務課長) 令和5年9月現在、1件の後援申請及び2件の共催申請を承認した旨、説明を行う。

(石崎教育長) 質疑等はあるか。

(佐間田委員) 下野市立学校音楽祭についてである。前回の定例会の際に会場について話題となったが、その後、当該会場はホール以外での音出しは禁止であるという情報を耳にした。このことについて、学校には通知しているのか。

(根本生涯学習文化課長) 各学校及び自治医科大学と調整を行い、合唱のみ、時間と場所を限定し、大会前の時間でのリハーサルが可能となった。大会議室及び中講堂において実施予定である。

(石崎教育長) 他に質疑等はあるか。(特になし)

続いて、報告第36号、令和5年度「いきいき学び塾」の事業報告について、説明を求める。

(石島学校教育課長) 資料「令和5年度いきいき学び塾事業報告」に基づき、事業目的、実施方法、成果、反省及び改善点等について説明を行う。

(石崎教育長) 参加者が延べ375名ということだが、事業に関するアンケート調査に回答したのは78名であった。一人あたり3～4回参加したことにより、述べ375名となったということか。

(石島学校教育課長) そのとおりである。毎回参加した生徒もいたという話も聞いている。最終的にアンケートに回答したのが78名ということである。

(石崎教育長) それでは、質疑等はあるか。

(佐間田委員) 学校教育サポートセンターについてである。学校に行きにくくなってしまった子どもについて、直接保護者が学校教育サポ

ートセンターに相談することができることについて周知不足であると感じる。実際に不登校傾向の子どもやその保護者と関わる中でそう感じているため、より一層の周知をお願いしたい。また、学校教育サポートセンター内の教育支援センターに通級する場合、制服を着用しなければならないのか。

(石島学校教育課長)

学校と子ども、保護者とで連携をしてほしいため、まず学校に対応をお願いしているところである。学校での対応が困難な状況になった場合、学校からサポートセンターを案内している。年度始めにサポートセンターについて周知しているが、方法について改善していきたいと思う。また、教育支援センターでは、制服着用でも体操着着用でも良い。

(佐間田委員)

私服での通級はできないのか。

(石島学校教育課長)

通級の手続きの際、先生と確認する事項になると思われる。基本的には学校に準ずる服装である。

(石崎教育長)

他に質疑等はあるか。

(永山委員)

生徒から「分からないときに先生に聞いたり、友達と教え合ったりしやすい雰囲気になると良い。」という意見があったということだが、教室にはサポートセンターの先生がいるため、先生に質問することは可能なのではないか。

(石島学校教育課長)

質問することは可能である。しかし、生徒間での話し合いを行ってしまうと、静かに勉強をしたい生徒の妨げになってしまう。そのため、基本的にはできるだけ自分で学習を進め、どうしても分からない場合には質問しても良いという形で実施している。

(石崎教育長)

他に質疑等はあるか。

(川田委員)

各学校とも1年生から3年生までが同じ教室で実施したのか。

(石島学校教育課長)

そのとおりである。同じ教室を会場として学校から借用し、実施している。

(石崎教育長)

川田委員の質問に関連して尋ねる。先ほど、今年度の参加者は昨年度よりも増えたという話があったが、学校別の参加者を見ると、在籍生徒数と全く比例していない。参加者が多い学校、少ない学校が分かれるのに理由はあるのか。

(石島学校教育課長)

参加者が多い学校については、夏休みの後半に日程を多く配置できた。参加者が少ない学校は、夏休みの前半の日程が比較的多く、部活動を引退していない生徒は参加が難しかった可能性がある。

また、参加者が多い学校からは「友達と教え合いたい」という意見が多く出ており、友達と誘い合って参加している生徒も多いようであった。翻って参加者が少ない学校は、比較的個人で参加している生徒が多かったため、そこが参加者数の差につながったのではないかと考える。

(石崎教育長) 参加者数が少ない学校においても、今後夏休みの後半に日程を多く設けることは可能か。

(石島学校教育課長) 昨年度はほとんどの日程が夏休みの前半に配置されてしまった学校もあったため、今年度は各学校とも夏休みの前半、後半にバランス良く日程を振り分けるようにした。次年度以降、参加しやすい日程を多く設けることができるよう、学校に働きかけていく。

(石崎教育長) また、先ほどの永山委員の質問に関連して述べる。確かに個別で学習を進めるのも良いが、「グループで参加して話したい」という意見も出ている。学校によって、実施方法や雰囲気異なるというのはいかがなものか。実施方法や期間の設定の仕方も含めて、ある程度統一したほうが良いのではないかと感じる。

他に質疑等はあるか。

(石島委員) 「いきいき学び塾」においては、サポートセンターの職員が一人で生徒の対応をするのか。当該学校の先生の補助はないのか。

(石島学校教育課長) 「学校の先生方は業務を休んでください。しかし、子どもたちの様子を少しでも見に来てください」というアナウンスは行っている。基本的に「いきいき学び塾」に関してはサポートセンターの職員が実施している。

(石島委員) 塾の集中学習に参加する生徒も多いため、生徒数と「いきいき学び塾」の参加者は比例しないのかもしれないと感じた。

(永山委員) 学校教育課長が述べた、サポートセンターの立ち位置に少し疑問を覚えた。先生方に休んでもらいたいということは分かるが、もしこの事業を学び直しの場としている場合、また「あの子、ちょっと気になるな」という子がいる場合に、自主的に参加し、生徒を見てあげたいという先生もいるかと思う。それに対して「結構です」と言うのはいかがなものか。「もしよろしければお手伝いいただければありがたいです」というアナウンスのほうが良いのではないかと感じた。

(石島委員) 現在、夏休み中の子ども様子が把握しづらくなっている。以前は、夏休みが終わる約1週間前に実力テストを組み、子どもたちの様子を確認していた。しかし今はそのような日程は組まず「休むときは休む」という傾向が強い。先生方も働き方改革により、休むことが推奨されている。しかしその割に、夏休み明けに児童生徒が学校へ来るか、自傷行為はないかということについては、見えないところで心配するしかない。そうであるならば、子どもの姿や表情を見て、働きかけが必要か確認する場面を、夏休み中でも作ったほうが良いのではないかと思う。メインはサポートセンターの先生であっても、永山委員が述べ

たように、参加できる先生は生徒に関わり、子どもの実態把握をしたほうが良いのではないかと感じた。

(石崎教育長)

永山委員、石嶋委員の述べたとおり、先生方に来てもらうのが良いと思う。一人で黙々と学習を進めているということだが、それは別の場所、別の機会でも可能なのではないか。現在、例えば大学生にボランティアで入ってもらい、こういった機会を設けている市町もある。その目的は、自分一人でできない生徒が、大学生あるいは先生に聞いて学び直しを行うことである。1年生でやり残してしまったことを、3年生で学び直すといった場合も多いため、「いきいき学び塾」は、友達に聞いたり、あるいは先生に聞いたりできる場とするのが良いのではないか。あくまでも今まで学べなかったことを学び直すことができ、そのために大人に質問できるという方向に進めた方が良いと感じる。検討してほしい。

(石島学校教育課長)

検討したい。

(石崎教育長)

他に質疑等はあるか。(特になし)

続いて、報告第37号、令和5年度とちぎっ子学習状況調査の結果分析について、説明を求める。

(石島学校教育課長)

令和5年度とちぎっ子学習状況調査の結果分析について、担当の指導主事から説明する。

(水本指導主事)

資料に基づき、令和5年度とちぎっ子学習状況調査の各教科の結果分析及び児童生徒質問紙の結果について説明を行う。

(石崎教育長)

質疑等はあるか。

(永山委員)

中学2年生英語の無回答率が高かった問題は、模範的にはどのように答えれば正解なのか。

(水本指導主事)

例えば「My town has many gyoza restaurants. Gyoza is delicious. I like it very much.」などである。その子どもによって違う作文になる。

(永山委員)

つまり、何を書いても正解ということか。

(石嶋委員)

自分の市町について書いていけばそうなのではないか。

(水本指導主事)

また、文法が正確であること、1～3文目がつながりを持っていることが条件となる。

(石嶋委員)

「餃子が有名。餃子おいしい。私は餃子が好きだ。」という英文でも良い。文章を思いついても、それを英語で書くことができる子が何人いるかは分からないが。

(永山委員)

「こんな名所があります。」「新幹線が通っています。」「東北自動車道が通っています。」など、何を書いても良いということなら、この問題で果たして学力を図ることができるのか疑問である。これが例えば「Are there any beautiful places in your town?」という質問の仕方であれば、答えが限定されるため、良いと思うが。

- (石嶋委員) スペルの間違いは減点になるのか。
- (水本指導主事) スペルミス、大文字小文字のミス、記号ミスがあっても、1～3文目につながりがあり、文法が合っていれば正解になる。
- (石嶋委員) 言いたいことがわかれば大丈夫ということか。
- (永山委員) そのような出題の仕方であると、書きやすいことを書けば正解になるため、本当に伝えたいことは避けて、書きやすいことを書く生徒もいるのではないか。また、本当に伝えたいことを書こうとした生徒が不正解になる可能性もあるのではないか。
- 私は、日本人の英語における一番の問題は、ボキャブラリーが足りないために、言いやすいように言ったり、自分の知っている範囲で喋ろうとしたり、本当に言いたいことを後ろに置いて、言いたくないことを喋ってしまう部分にあると考えている。このような、日本人の英語の一番弱い部分を、更に助長するような問題なのではないかと感じた。
- (石嶋教育長) 他に質疑等はあるか。
- (佐間田委員) 児童生徒質問紙の中学生への質問に、テレビゲームの時間を答えるものがあつたが、だいたい何時間が最も多かったのか分かれば教えてほしい。
- (水本指導主事) 「4時間以上」が11.6パーセント、「3時間以上4時間より少ない」が9.7パーセント、「2時間以上3時間より少ない」が21.1パーセント、「1時間以上2時間より少ない」が24.5パーセント、「1時間より少ない」が19.7パーセント、「全くしない」が13.3パーセントである。
- (石嶋教育長) 他に質疑等はあるか。
- (石嶋委員) とちぎっ子学習状況調査が終わった後、その問題について学校の授業で取り上げるのか。それとも解きなおしはせず、そのままなのか。
- (水本指導主事) 各学校において、担任の先生が問題について授業で取り上げている。全問を一緒に確認するか、特に課題が多かった問題のみ取り上げて確認するか、その取扱いは学校に任せている。
- (石嶋委員) 問題について授業の中で確認する方法は、各担任の先生に任されているということか。
- (石嶋教育長) 他に質疑等はあるか。(特になし)
- ここで諮る。報告第38号、議案第32号、議案第33号については、個人情報に関する案件であるため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定により、非公開として進めたいと思うが、よろしいか。(全委員承認)
- それでは、報告第38号、議案第32号、議案第33号について非公開として進める。(教育長、教育委員、教育次長、教育総務課長、学校教育課長、学校教育課指導主事及び事務局職員以外は退出)

まず、報告第38号、下野市教育支援委員会の判定結果について（第1回答申）、説明を求める。

以下、非公開。

(石崎教育長) 続いて、議事に移る。（退出していた各課長が入室）

6. 議事

(石崎教育長) 議案第32号、令和5年度下野市児童表彰被表彰候補児童の内申について、説明を求める。

以下、非公開。

(石崎教育長) 議案第32号を決定してよろしいか。（全委員承認）
議案第32号は原案どおり決定する。
続いて、議案第33号、下野市文化財保存活用地域計画推進協議会委員の委嘱及び任命について、説明を求める。

以下、非公開。

(石崎教育長) 議案第33号を決定してよろしいか。（全委員承認）
議案第33号は原案どおり決定する。
ここで非公開を解く。
続いて、その他に移る。

7. その他

(石崎教育長) (1) 令和5年度 下野市教育委員会主要日程について、説明を求める。

(平野教育総務課課長補佐) 本日配布した主要日程は、4月に一度配布しているものを、本日以降の予定の更新ということで改めたものである。各課から各事業等について説明する点があれば、お願いしたい。

(石崎教育長) 各課から説明はあるか。

(伊藤スポーツ振興課長) 本日、令和5年度下野市民体育祭運動会・スポーツフェスティバルについて、役員委嘱と併せて配布した。10月8日、石橋地区、国分寺地区については市民体育祭運動会、南河内地区についてはスポーツフェスティバルが開催される。会場が3か所あるため、参加の調整をお願いしたい。当日は午前8時30分から開会式を開始するため、8時頃には本部にて受付をお願いする。

(石崎教育長) 他に説明、質疑等はあるか。

(永山委員) 公民館運営審議会に印が付いている。教育委員は出席しない

行事だったと思うが。

(石崎教育長)

公民館運営審議会については、教育委員の皆様への出席は求めている。この表を見ると、教育長への出席に関するものと、教育委員の皆様への出席に関するものが混在しているようである。この表については、教育委員の皆様への出席に関するものについてまとめてほしい。

主要日程について、他に説明はあるか。(特になし)

それでは、事務局から連絡事項はあるか。

(根本生涯学習文化課長)

下野市立学校音楽祭のプログラムについて配布した。午前9時30分開会、午後2時15分ごろ閉会予定である。なお、市内小、中、義務教育学校の合唱、合奏の他、自治医大のアカペラサークルと管弦楽団及び石橋高校吹奏楽部の演奏も行われる。駐車場については、来院用駐車場ではなく、建物北側のゲート式ではない駐車場を利用いただきたい。今回初めて自治医科大学の地域医療情報研修センターにおいて開催する。

続いて、下野市民芸術文化祭についてである。10月14日から11月9日、延べ8日間にわたり4つの会場で開催する。主に展示部門と舞台発表に分かれるが、今年度は極力日程が重ならないよう調整を行った。初日である10月4日、国分寺公民館で開会式を行う予定である。

(石崎教育長)

開会式、閉会式に参加する際は、受付に声をかけてほしい。他に事務局から連絡事項はあるか。

(根本生涯学習文化課長)

グリムの森フェスティバルについてである。今年度は9月23日、24日の2日間にわたり開催する。23日はeスポーツ体験会、メタバース体験、サイエンス実験。24日は森の音楽祭、ツリークライミング等、様々な催し物を準備している。

(石崎教育長)

質疑等はあるか。(特になし)

他に事務局から連絡事項はあるか。

(石島学校教育課長)

関東大会及び全国大会が終了したため、結果についてまとめた資料を配布した。また、吹奏楽コンクールについても掲載したため、確認をお願いする。

(石崎教育長)

質疑等はあるか。(特になし)

他に事務局から連絡事項はあるか。

(伊藤スポーツ振興課長)

天平マラソンについてお知らせする。昨年度まではコロナ禍によりオンラインでの大会を実施していたが、今年度からは従来のおり実地での大会ということで、通算50回目の大会を計画している。現在参加者を募っているため、詳細が決定次第報告する。

(石崎教育長)

質疑等はあるか。(特になし)

他に事務局から連絡事項はあるか。

(高山教育総務課長)

第16回下野市教育のつどいの講師が決定したため報告する。

下野市在住の作家であり、今年度「こだまを抱いて」という児童書を、市内の学校に寄贈された水樹涼子氏である。「こだまを抱いて」という児童書を、市内の学校等に配送した。現在、NHK文化センターの創作講座講師、獨協医科大学の非常勤講師などを務めている。

(石崎教育長)

質疑等はあるか。(特になし)

他に事務局から連絡事項はあるか。

(山口文化財課長)

例年夏休みの課題として、文化財絵画展を実施しているが、今年度は268点の応募があった。明日、選考委員会を実施し、両資料館と市役所ロビーに作品を展示する。毎年およそ20名ずつ応募が増えている状況である。夏休み中児童が資料館に来て、熱心に絵を描く姿も見受けられた。

(石崎教育長)

他に質疑等はあるか。(特になし)

他に事務局から連絡事項はあるか。(特になし)

それでは、教育委員の皆様から連絡事項はあるか。

(佐間田委員)

先日、不登校傾向の子どもと話す機会があり、そこでスクールカウンセラーに相談したか確認したところ「学校に行けていないから家に来てくれたけれど、先生とカウンセラーとお母さんに囲まれて、尋問みたいだった」ということを話していた。そのような形であると、子どもが話したいことを話せない。心理職としてはそういう場面において、必ず守秘義務を守り、必要な人に情報を共有するときは、本人の了承を得ることが必要である。スクールカウンセラーが学校の中でこういった立ち位置にいるのかは分からないが、心理職を配置しても、機能しなければ意味がないので、状況を確認してほしい。

(石崎教育長)

このことについて、事務局で把握している内容はあるか。

(石島学校教育課長)

守秘義務を守るのは大前提だが、スクールカウンセラーは通常のカウンセラーと違い、学校に伝えておいた方が良いことについては伝えることができる。しかし、佐間田委員の述べたとおり、今回のケースのような状況では、確かに子どもは本音を言うことができないと思われる。学校における相談の場合は、保護者と子どもとで別々で実施するのが通常であり、訪問の場合でも教員、保護者は席を外す等の配慮が必要であったと考える。実際の業務がどのような形になっているのか確認する。

(佐間田委員)

安全確保がされなければ、かえって不信感につながってしまう。確認をお願いする。

(石崎教育長)

学校において相談を行う場合は、なるべく人目につかない静かな部屋を一部屋定め、児童生徒や保護者、教職員等の相談者に一人で来てもらい、一対一で話を聞くのが原則である。

(石島学校教育課長)

スクールカウンセラーではなく、スクールソーシャルワーカーということはないか。

- (佐間田委員) 詳細は不明である。
- (石島学校教育課長) スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを各中学校区に配置している。家庭を訪問するのは、どちらかという
とスクールソーシャルワーカーの可能性もある。相談形態については早急に確認したい。
- (佐間田委員) 安全が確保されていないと、子どもだけではなく学校の先生も相談しにくくなってしまっているのではないかと感じる。確認をお願いする。
- (石崎教育長) 恐らく、スクールカウンセラーではなくスクールソーシャルワーカーではないかと考えられる。
- (石島学校教育課長) スクールソーシャルワーカーと家庭とをつなぐ、顔合わせのための訪問だった可能性もある。子どもも大人数に囲まれると驚いてしまうのが実情だと思うが、家庭を訪問するのはソーシャルワーカーの業務の方が近いと感じるため、確認する。
- (佐間田委員) 子どもが引いてしまうような場にはなるべくしないほしい。もう一点述べたい。一人一台端末についてであるが、学校によって導入されているアプリケーションが異なるということを生徒が話していた。教育に関係するものについては、平等に機会を与えてほしいと感じる。教材に関して差があるのは残念である。
- (石島学校教育課長) アプリケーションについては、原則学校から申請があった際に、どういう理由で使うのかを確認した上で、原則としてはその学校単位、学年単位で導入するという形を取っている。学校の希望を聞きながら実施している状況であるため、当該アプリケーションがどのようなものか確認する。
- (佐間田委員) 各校でアプリケーションに関する情報共有は行わないのか。
- (石島学校教育課長) 場合によってはアプリケーションの利用目的が狭い場合もあるため、申請があったものを全校で導入しても、学習活動で有効に使えるかどうかは分からない。当該アプリケーションをどのような経緯で導入したのかも含め、確認する。
- (石崎教育長) 例えば、使用目的が普遍的であり、他の学校における学習でも非常に役に立つアプリケーションがあったとする。そういった場合に、パソコンやICTに詳しい教職員がいる学校や、ICTに積極的な雰囲気がある学校は、新しいアプリケーションを導入することができ、新たな学習活動を取り入れることができる。その一方で、他の学校は新しいアプリケーションを探すことができないといった状況が発生する可能性もある。ある程度どの学校でも同じような活動ができるように、アプリケーションの共有は必要なのではないか。
- (石島学校教育課長) 市内学校共通で導入しているアプリケーションは、当初よりも増加している。これからも種類を増やす方向で進めている。

(石崎教育長) 各学校の申請に任せると共通理解が図れないため、各学校の話し合いの場を設け、情報共有を行い、どの学校もほぼ同じようなアプリケーションを導入することが必要かと思う。学校の申請に任せると、先ほど述べたような状況により、学校ごとの差が生じる可能性がある。

(永山委員) 教科書の採択と同様に、教育委員会でタブレットを支給しているのであれば、利用内容に関しても、ある程度共通のものを用意しておくことが必要だと感じる。各校のICT関係に詳しい教職員が集まり、内容について検討する場を設けると良いのではないか。

タブレットについて一点述べたい。GIGAスクール構想により、本当に学力が上がっているかどうかの検証は、誰がいつどこで行うのか疑問である。学習に役立つという前提で相当の労力を使い、学校現場においてタブレットを使用しているが、全国学力学習調査などのデータと比して、本当に学力が上がっているかどうかという検証はどこかで実施しなければならない。前のめりになりすぎず、時々立ち止まり、私たちが振り返りしていかなければならないのではないかと感じた。

(石崎教育長) 貴重なご意見に感謝する。他に教育委員の皆様から連絡事項等はあるか。(特になし)

それでは、以上でよろしいか。(全委員承認)

(平野教育総務課課長補佐) 次回の教育委員会定例会は、令和5年10月13日(金曜日)午後1時30分から、教育委員会室で開催を予定している。

9. 閉会

(石崎教育長) 以上をもって、令和5年度第6回教育委員会定例会を閉会する。

(午後4時30分閉会)

議事録作成者

議事録署名人

議事録署名人